

2015年2月3日

世界平和を願っている世界中のみなさまへ

NGO こめ（光命） 代表 富井富士子

争いや奪い合いなどの負の連鎖を止めることができたならと祈念しています。
お読みいただき、宜しいうでしたら、ご協力お願いします。（拡散大歓迎）

私たちは、幼子の笑顔を未来に繋げる「未来づくり」を考えました。

子どもたちが観ています。子どもたちは、観たことを繰り返すのです。
子どもたちに繰り返して欲しい「未来づくり」を、今、始めてみませんか。

お米作りで、平和な世界づくりを始めてみませんか。

世界中の砂漠に、お米を栽培することができたら、世界中が平和になります。
人は、食べることで生かされています。
お金や爆弾や武器を食べて生きているではありませんから。

そのことに気付いた人たちから、立ち上がり「未来づくり」を始めませんか。
静かに楽しく未来を創る姿を、観て育った子どもたちが、私たちが始めた「未来づくり」を引き継ぎ、戦争のない平和な世界を継続してくれることでしょう。

私たちは、世界中の砂漠にお米を栽培することで、世界平和が叶うだろうと
考え、その為の準備を行ってきました。既に実施可能構想としてパンフレット
にまとめてあります。モデルづくり建設予算を200億円と想定し、今年、モ
デルづくり建設が叶い準備することが出来れば、来年から砂漠にお米作りを始
めることができると考え働きかけています。

この構想は、日本国内の内需拡大産業になる構想でもあります。日本でも、
都市と地方の格差が著しく、私たちの地域は長く苦渋を舐めてきました。その
是正として、国が地域住民の考える地方活性化構想提案を呼び掛けました。そ
の流れに乗せるべく提案も行っています。

これまで、私たちの構想は、「モデル（パンフレットの呼び水事業）」が作品
（製品）という捉え方であること、世界に例のないことから、インターネット
等の媒体を使用しないで、普及活動を行ってきました。

私たちは、宗教については詳しく分からないのですが、イスラム教やキリス
ト教等の教えの中に、人類が神様とお約束したようなものがあるのでしょうか。
そのお約束した期日が近いのでしょうか。

私たちの構想が、一連の世界の出来事とシンクロナイズしているように感じ、また私たちの構想を探されているようにも感じ、この度インターネット上に配信することにしました。

私たちの住む地域には、日本一の大河 信濃川が在ります。魚沼産コシヒカリ米の産地です。そして日本有数の豪雪地で、冬に3m程の積雪があります。厳しい自然環境ですが、火焰型土器をはじめとする縄文土器の出土から、9,000年間程続いた縄文時代の都が在ったのではと言われる研究者も出ています。しかし残念ながら、そのことを知っている日本人はほとんどいません。

私は、とても緻密で芸術性の高い火焰型土器が出土されたことから、古代縄文時代には、すでにお米が栽培されていた可能性を感じ、そのことで、平和な時代が長く続いたのだらうと予測していました。

2006年に、リビア、エジプトを旅しました。世界遺産登録されている石造建造物を観て、平和が長く続いた時代があったのだらうと想いました。地形や古い民家から、その時代は、現在の砂漠でお米を栽培していたのだらうと想像できました。そして、広大な領地の国だったのだらうと想像しました。

リビアに行ったのは、3月末でした。最高気温が25℃位で最低気温が10℃位に記憶しています。エジプトに行ったのが9月末で、最高気温が52℃で最低気温が15℃位に記憶しています。私たちの住む地域は、冬を除いてお米を栽培しています。リビア、エジプトでしたら、夏を除いたお米づくりが可能なように考えています。ハワイでは、年に3回お米栽培ができたそうですから、年に2～3回栽培できるようになるのではと思います。

現代は、人類が宇宙に頻繁に行く時代です。とても高度な科学技術が開発されています。世界中の知恵と技を集めたら、必ず砂漠でもお米を栽培することが可能になります。ナイル川と信濃川、大きさでは敵いませんが、地形的類似点があります。私たちの地域には、お米作りや農業や土木技術があります。

私たち NGO こめ（光命）は、品種改良を重ね砂漠で栽培するためのお米の種を準備しました。また、空気中のチッソを大地の栄養とする農法の実証実験を済ませ、その農法に必要な資材を作る設備の為に、科学技術者から開発いただき参加いただいています。既に特許も取得しています。

子どもたちの未来の為に、砂漠にお米をつくる支援者も、世界中から沢山参加されると想っています。

この続きは、次ページのパンフレットをご高覧いただければ幸いです。

NGOこめ(光命)の目的

自然の摂理を回復させ、循環産業社会を平和的に楽しく構築するための活動を行います。
(循環型社会は、太陽光と地上資源による循環産業社会)

NGOこめ(光命)の名前の由来

NGOとはNon-Governmental Organizationの略で、社会貢献を行うことを目的とした民間団体のことです。
私たちは善き未来をつくるための実験研究をしながら、提案させていただき賛同いただいた方々と活動し、そのことで平和的に命や心・想いを大切にする未来をつくりたいと考えています。
こめ について：古文書に米のことを光命と表記してあります。「光＝愛」、米のように四方八方を照らす活動を行いたいと考えています。

誓い

私たちは、未来は命や心・想いを大切にする社会であると考えています。それは、生存するだけで満点であり、全てが保障され、自らの役割を楽しく行うことができ、共に与え合う社会です。そして、お金で評価される社会ではなくなると考えています。戦争や格差ありません。

「NGOこめ(光命)の活動(事業)で得た収入」は、「命や心・想いを大切にする未来づくり」のための資金源にしたいと考えています。
資金源が集まり次第、NGOこめ(光命)の目的、活動に賛同し、加入いただいた方々に、地域的バランスなどを考慮して、この未来づくりを世界中に広めることを誓います。

(注)今はみなさまから賛同いただいた上で、支援という参加をお願いしている段階です。

お願い

NGOこめ(光命)は、今現在、会員募集を見合わせております。
(注)今は、みなさまから賛同いただいた上で、支援という参加をお願いしている段階です。

必ず前進させ、皆様にインターネット上で、NGOこめ(光命)の会員募集を行います。今しばらくお待ちいただけますようお願い申し上げます。

支援

NGOこめ(光命)は、彗星搜索家・木内鶴彦さんの提唱されているNGO活動に賛同して、新潟県中越大震災の翌年(2005年)10月22日に、復興を誓い発足しました。そのような経緯から、明るい未来の為の民間団体の活動を支援したいと考えています。

(有)富井富士子事務所は、NGOこめ(光命)活動を目的とし屋号とする、地域(まち)おこしのソフトとハード設計を行っている地域開発コンサルタント会社です。誰もやったことのない企画や設計、そして運営は、考案者が責任をもって施設建設、人材育成、地域(まち)づくり指導、施設運営を行い、地域経済や地域住民が育った立ち上がりまでを行わなければ、地域おこしの任務を遂行したことにはならないと考えています。そのようなことから、それら一連の事業委託を受託して行うことのできる定款の会社となっています。

未来づくりに参加いただくと



あなたに、こんな素敵なおプレゼントが届く世界を築きましょう!!



® NGOこめ(光命)・ボランティア活動
NGO こめ(光命) 事務局
新潟県十日町市水口沢92-3
TEL.025-761-1580 FAX. 025-761-1581

® NGOこめ(光命)・ビジネス事業
有限会社 富井富士子事務所 代表取締役 富井 富士子
(地域開発コンサルタント会社、1級建築士事務所、自然食品店「えことびあ」)
TEL.025-761-1580 FAX. 025-761-1581
E-mail: miraidukuri@ngokome.org
ホームページ http://www.ngokome.org/ecotopia/

2011年	6月	11日	第1版発行
2012年	8月	28日	第2版発行
2013年	6月	6日	第3版発行
2013年	12月	20日	第4版発行
2014年	7月	1日	第5版発行
2015年	2月	3日	第6版発行
2017年	10月	20日	第7版発行
2020年	1月	23日	第8版発行
2023年	4月	28日	第9版発行
2024年	3月	20日	第10版発行
2026年	8月	15日	第11版発行

NGOこめ(光命)が考えている「未来づくりビジョン」

未来は、循環産業社会

© (有)富井富士子事務所

命や心・想いを大切にする未来は、持続可能な循環産業社会です。

人類は、地球の生態系のバランスを取る役割を持たされ、地球に誕生した最後の動物です。地球の生態系を取り戻すことを産業とする循環産業社会にすることで、最低限の苦難はありますが、歓喜して生態系そのものの地球を取り戻し、人類が平和に幸せに暮らし続ける明るい未来に成ります。

1. 循環産業社会の活動 (図1は活動イメージです)

①植物を守る

②衣食住を確保する

③新エネルギーを出現させる

③新エネルギーを出現させる活動

エネルギーの課題

- ・温室効果ガス (CO₂ 換算物質) の増加によるオゾン層の破壊
- ・リチウムは空気中のチッソと化合し爆発
- ・化石燃料の枯渇
- ・発電所建設、発電、送電による環境、人体への影響
- ・発電所、送電の災害時の危険性と送電不通
- ・原子力発電の高い危険性と光害

転換

循環するエネルギー

- ・環境を汚さないもの
- ・植物は腐っても、燃やしても循環内 (注: 森林の木は無限ではない。間伐材・ボヨ伐材利用は、治山整備、森林整備内)
- ・地下資源を燃やさないで熱になるもの
- ・石油製品も安全にサイクル品にできるもの
- ・「ごみ」も安全にサイクル・リサイクル品にできるもの(ごみがなくなる)
- ・永久的使用可能なもの
- ・安価なもの

①植物を守る活動

植物の課題

- ・森林の伐採、山津波(土砂崩れ)による砂漠化
- ・CO₂の増加(酸素の不足)
- ・森林の樹木の立ち枯れ
- ・森の動物が人里に出没
- ・植物の光害(夜の明かりによる害)によるストレス
- ・農薬、化学肥料の使用による、山川海の異変と異常気象

土づくり・森林の整備

- ・生態系のバランス再生
- ・森は海の恋人(植樹・治山整備)
- ・山川海の災害の防止
- ・農薬、化学肥料の使用消滅
- ・犯罪、自殺の防止
- ・労働と引換えとしての収穫物
- ・午後10時消灯

転換

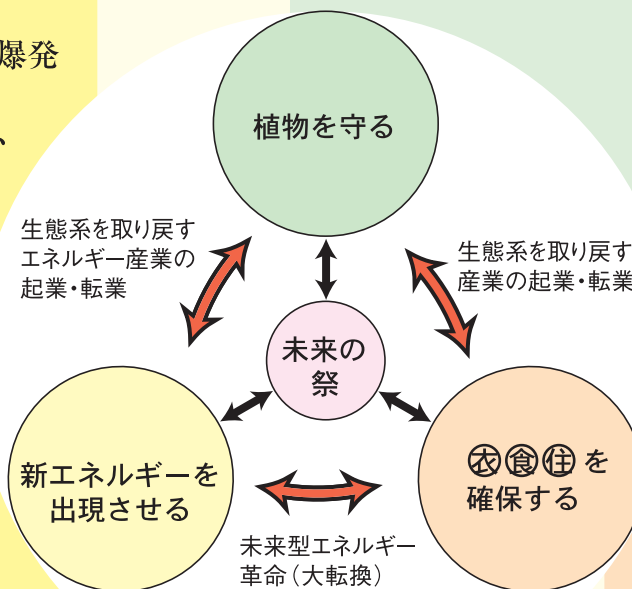
②衣食住を確保する活動

「森を守る文化(心)」の習得

人類の存在意義の転換

人類の暮らし(衣・食・住)が地球環境のバランスを整えるものに転換させる。

図1. 活動イメージ図



未来の祭

情報

交流

宇宙とのつながり

分かち合い

・相互発信、みなで共に活動しながら考え細部を決めていく

・相互理解、提案、合意形成

・豊作を祈願、エネルギーの享受

・愛、感謝、生きるために必要なもの

相互支援

2. 循環産業社会は、相互支援社会です

都市	↔	田舎
山地	↔	平地
川の上流	↔	川の下流
労働	↔	引換えとしての収穫物
健常者	↔	健弱者、社会的弱者
国際的相互支援		・地球全体を捉えたバランスの調整 (具体的には、貧富の差の是正、エネルギー資源も含めた収穫物の均等配分等)

3. 循環産業社会は、お金だけが価値でない社会です。

目指す姿は、

- ・存在するだけで満点
- ・能力ではなく、生活に応じて必要なものが与えられる社会
- ・縦社会でなく、横社会、相互扶助社会
- ・利他的思考・活動・労働社会
- ・必要なものは、交換し合う、与え合う、分かち合う社会

新しい価値観による「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」をつくります
「(循環産業社会ムラモデル)」

未来づくりに参加してみませんか!

自らの住む地域(まち)は、住む人みんなに関わってつくるものです。誰かがつくったものでは、愛着も育たず、自分の居場所も出来にくいものです。

そして、大変な作業かもしれませんが、本当は、望む未来を描きつくることは、楽しいことなのです。私たちの「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」が有ることを、知れば知るほど、あなたは未来を描くことが楽しくなることでしょう。
(循環産業社会ムラモデル)

未来づくりに参加して、新しい価値観による「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」で、楽しい夢を描いてみましょう!
(循環産業社会ムラモデル)

※新しい価値観(これからのビジョン)、「生態系を取り戻す産業モデルづくり」、「豪雪・中山間地の基幹産業モデルづくり」企画については、このパンフレットの中面に詳細が掲載してあります。ご高覧をお願いします。

未来づくりの参加の仕方

1. 「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」で、新しい未来を描いてみる

2. 「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」が有ることを、身近な方や興味を持たれている方にお伝えして、普及支援する

3. 「豪雪・中山間地の基幹産業モデルづくり」を支援する

・「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」の早期出現のためには、多くの方に理解いただくことが重要なことです。これまで見たことの無いものを、理論で理解するのは、とても難しいことです。「豪雪・中山間地の基幹産業」を説明する理解し易い地域システムモデルをつくり、理解いただく速度を上げることに努めます。

明るい未来づくりは、みなさまの支援金で始まります。
ご支援よろしくお願ひします。

支 援 金

1口 10,000円から
上限はありません。

支援金のお振込先

〈郵便振込〉
記号番号 00580－8－83324 NGO光命

〈銀行振込〉
魚沼農業協同組合 川西支店
口座番号 普通 0008454 NGO光命

※「豪雪・中山間地の基幹産業モデルづくり」支援に参加された皆様には、進捗の都度、情報提供させていただきます。銀行振込をされた方は、住所をご連絡いただければ幸いです。

「生態系を取り戻す産業モデルづくり」について

豪雪・中山間地の基幹産業モデルづくり(循環産業社会ムラモデルづくり)

「木質資源新素材転換センター」から始まる、循環産業社会ムラモデルづくり
(人造黒鉛、ナノカーボン、ホワイトカーボン製造センター) (十日町市圏域)

想い(心):「幼子の笑顔を未来につなげたい」

目的: 1. 山(植物)を守る整備から始まる循環産業社会づくり
2. 山(植物)を守る整備から始まる生態系を取り戻す産業づくり

目標: 新しい価値観による「生態系を取り戻す産業モデル」をつくります
その「呼び水事業」として、「豪雪・中山間地の基幹産業モデルづくり」を行います。

「木質資源新素材転換センター」の事業化⇒未来循環博in十日町市圏域!
(人造黒鉛、ナノカーボン、ホワイトカーボン製造センター) 建設予定地:十日町市内 (十日町市圏域(十日町市・津南町・長野県栄村・旧高柳町 含む))

※上記詳細は、このパンフレットの中面に掲載してありますので、ご高覧をお願いします。



この内容は、東日本大震災や豪雨豪雪災害から学び、新しい価値観(これからのビジョン)の「豪雪・中山間地の基幹産業モデル」を早期出現させ、生態系を取り戻す産業ができることで、今後の地域(まち)づくりを、地域に住んでいる方々が描く時の大きなポイントになると考えています。

NGOこめ(光命)新しい価値観による「生態系を取り戻す産業」が立ち上がるまで、共に歩みます。

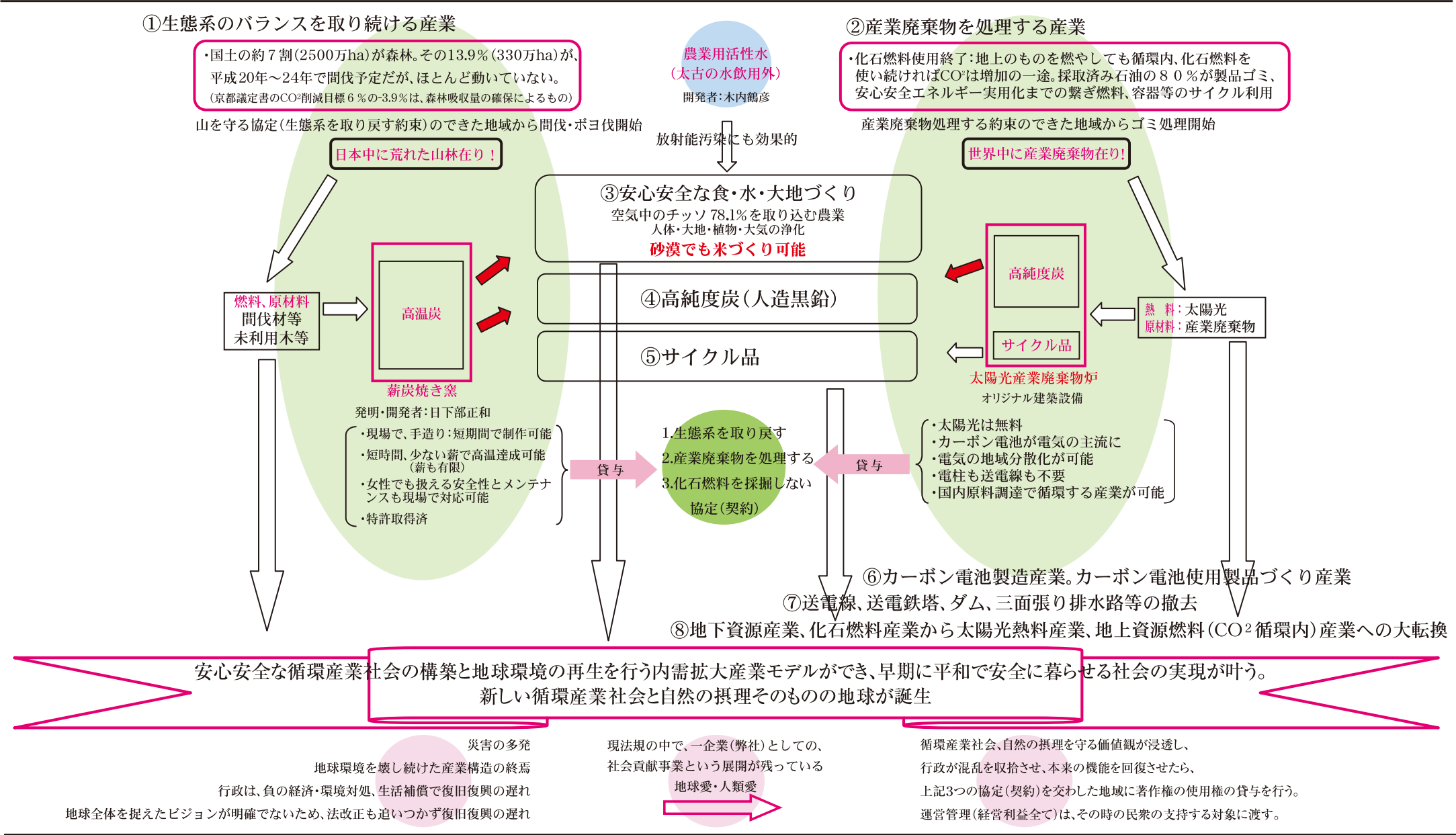
この内容の著作権は、NGOこめの母体である地域開発コンサルタント会社並びに、一級建築士事務所である(有)富井富士子事務所 代表取締役 富井富士子に有ります。

この内容に関する一切の責任は、(有)富井富士子事務所の代表取締役であり管理建築士の富井富士子(旧姓:今野、宮城県出身)が負うものとさせていただきます。

この内容に関するお問い合わせは、直接、富井富士子までいただきますことをお願いいたします。

想定外の大地震や津波に見舞われた中、猫の犠牲は僅かであったという報告が挙がっています。私たちが、今これから求める暮らしは、猫や他の動物たちのように、命を守る本能が磨かれるものであること、加えて、全てを機械や電気に頼らない手仕事や、暮らしに重要なものは手動で動かすことができる物づくりと暮らしづくりが、新しい価値観の地域(まち)づくりのポイントになります。

そして、大切なものを真中にする、あらゆる考え方の中に子どもや弱者を真中にした社会であれば、とても住み心地の良い「ふるさと」ができることでしょう。



【全内容が弊社コンサルタント業務】誰も考えていない構想は、ハード事業(施設建設など)や経営が伴っても全て教材(ソフト事業)であり、立ち上がりまでコンサルタント業務となります。

